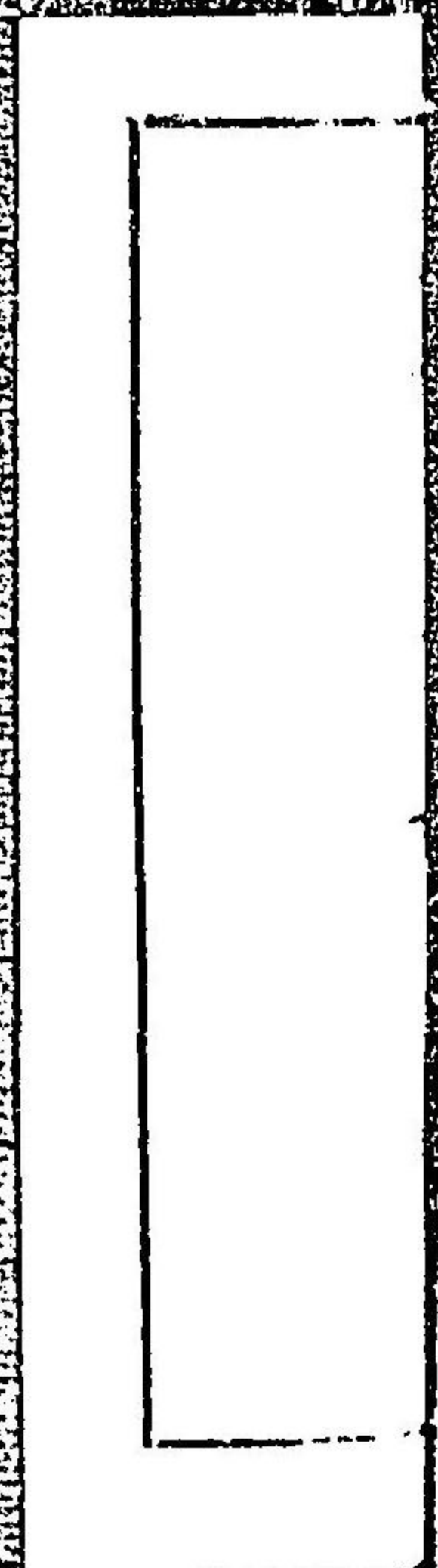
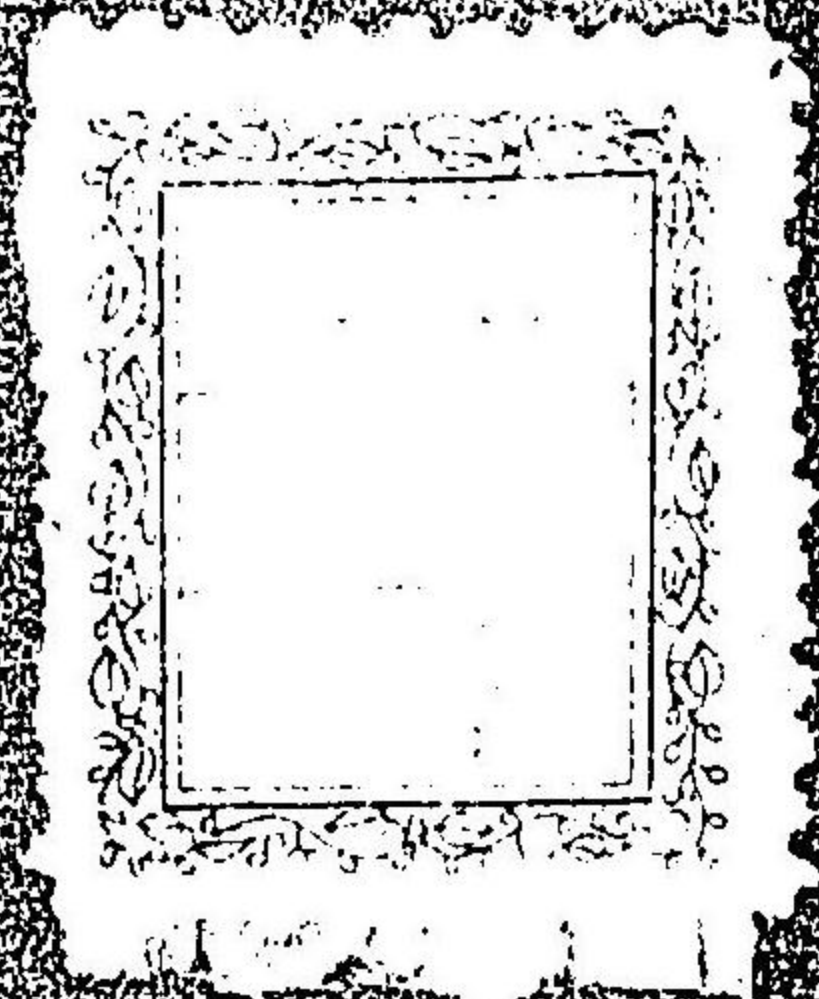


人命急變救助法完



[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

71
72

757

125586

中華圖書

警察醫藥救急療法講師

安藤卓爾編纂

人命急變救急方法完

警視廳藏版

聖德太子御製
萬葉集卷之六



例言

本廳曩ニ巡查教習所ヲ設ケ其生徒ヲシテ警察ノ法科ヲ學理ニ講習シ且ツ實地ニ訓練セシム矣 不肖亦該生徒ニ人命急變救助法ヲ教授スヘキノ命ヲ受ケタリ然ルニ現今該科適應ノ書ナシ是ニ於テ警務要書中人命急變ノ條款ヲ主トシ其欠ヲ醫書ヨリ摘補シ且ツ會得シ易カラシメンカ爲メニ圖畫ヲ附シ以テ此書ヲ編纂セリ

二 一本編ハ人命危急ノ變故ニ臨ミ一時ノ救助法ヲ知ラシムルニアリ故ニ專ラ簡短ニシテ即時施シ得ヘキ者ヲ擇ヒ其複雜ナル者或ハ藥品ヲ投ス可キ者等ノ如キハ却テ貴重ノ人命ヲ誤ルノ恐レアルヲ以テ更ニ之ヲ記載セス

明治二十年九月

卓爾識

人命急變救助法

目次

第一款	要領	一丁
第二款	創傷	六丁
第三款	毒創	一九丁
第四款		

二

打撲傷、骨折傷、脫臼、

二〇丁

第五款

熱傷

二五丁

第六款

凍傷

二七丁

第七款

負傷者運搬法

二九丁

第八款

卒倒

三一丁

第九款

假死

三九丁

第十款

絞縊

四〇丁

第十一款

溺水

四四丁

第十二款

窒息

四八丁

三

第十三款

四

人工呼吸術

四九丁

第十四款

中毒

六一丁

第十五款

死徵及死體所置

六五丁

附錄

日本手巾綑帶用法

目次終

人命急變救助法

警察醫兼救安 藤卓爾 編纂
急療法講師

第一款

要領

(一) 人命急變トハ不慮ノ災害疾病等總テ人命ニ
關スル危急ノ變故ヲ云フ其類ヲ舉レハ大畧
左ノ如シ

創傷

毒創

打撲傷、骨折傷、脱臼、

熱傷

凍傷

卒倒

絞絡

溺水

窒息

中毒

前項列記スル者ノ如キハ死生ノ機瞬息ニ決

スル者アレハ之ヲ救援スル最モ迅速ニメ且
ツ其手當ヲ誤ラサルヲ要ス但シ此場合ニ在
テハ醫師ハ勿論其他近傍居合ノ者ニ助力ヲ
求ムルコトアルヘシ

(三)治療ノ事タル素ヨリ醫師ノ關スル處ナリト
雖モ火急ノ場合之ヲ待ツニ暇ナキハ先ツ
適宜ノ手當ヲ爲サ、ル可ラズ其手當ノ方法
ハ下款ニ舉示スルヲ以テ豫テ之ヲ熟知シ變
故ニ臨ミ其順序ヲ誤ラサルヲ要ス

四(四)前項ノ手當ヲ爲スハ全ク一時ノ急ヲ救フカ
爲メナレハ之ヲ施スト同時ニ醫療ヲ求ムル
ノ手續ヲ爲スヘシ尤モ最寄ニ病院若クハ醫
家アルトキハ先ツ醫師ヲ呼來ルカ或ハ之ニ
就テ治療ヲ施サシムル等便宜取計ヲ爲スヘ
シ

(五)患者ノ取扱ハ極メテ大切ニスヘキハ勿論最
モ鎮靜ヲ要スルモノナレハ救援及看護ニ必
要ナル者ノ外ハ之ニ接近セシム可ラス

(六)凡ソ急變ニ係ル患者ハ絶息ノ後數時間ヲ經
タルモノト雖モ治療ノ應當ニ依リ蘇生スル
ノ例少ナカラサレハ臆斷ヲ以テ輒ク之ヲ抛
棄スル等ノコアル可ラス必ス其手當ヲ盡シ
且ツ醫師ノ診斷ヲ求ムヘシ

(七)患者ノ模様自發若クハ他人ノ所爲ニ係ルカ
又患者ニ關スル器具藥品等ノ周圍ニ散在セ
ル者及血痕ノ汚點等凡ソ檢視上必要ノ件々
ハ原狀ヲ變セサル様注意スヘシ

五

六

第二款

創傷

(八)創傷ハ其金創、打創、銃創、ニ拘ラス先ツ創處ヲ
 檢シ衣帶等ノ之ヲ掩フ者アラハ解放スヘシ
 若シ創内ニ竹木屑片等異物ノ容易ニ除去ス
 ルヲ得ヘキ者アラハ注意ノ之ヲ除キ或ハ清
 水ニテ洗ヒ去ルヘシ但シ之カ爲メニ時間ヲ
 徒費シ又妄ニ身體創所ヲ動ス可ラス

(九)凡ソ創傷ハ出血ヲ止ムルノ手當ヲ緊要トス

然レモ其止血ノ術ヲ施サンニハ先ツ吾人體
 内血液循環ノ大要ヲ知ルニアラサレハ能ハ
 ス則チ血液ハ甲乙二種ノ血管ニ由テ體內ヲ
 循環スルモノナリ而シテ甲ヲ動脈ト名ケ乙ヲ
 靜脈ト名ケ又此血液ヲ輸出スル器關ヲ心臟
 ト云フ

七

心臟ハ胸腔ノ左半部内ニ位スル一個ノ空洞
 ナル肉質ニシテ内ニ瓣膜ヲ備ヘ其大サ殆ソト
 各自ノ手拳ニ齊シ而シテ左右ノ兩半部ヨリ成

八

リ其縮張作用ニ由リ左ハ動脈ヲ經テ血液ヲ
全身ニ輸出シ右ハ肺動脈ヲ經テ血液ヲ肺臟
ニ輸送スル者ナリ

動脈ハ根ヲ心臓ニ取リ恰モ樹枝ノ分岐スル
カ如ク漸々分岐ノ細小トナリ遂ニ緻密ナル
毛細管網ニ移ルモノナリ其壁質彈力ニ富ミ
恰モ護謨管ノ如ク之ヲ強壓スルキハ扁平ト
ナリ之ヲ放テハ復故ス其血液ハ鮮紅色ニシ
流勢迅速ナリ故ニ動脈ノ一部ヲ斷切スルキ

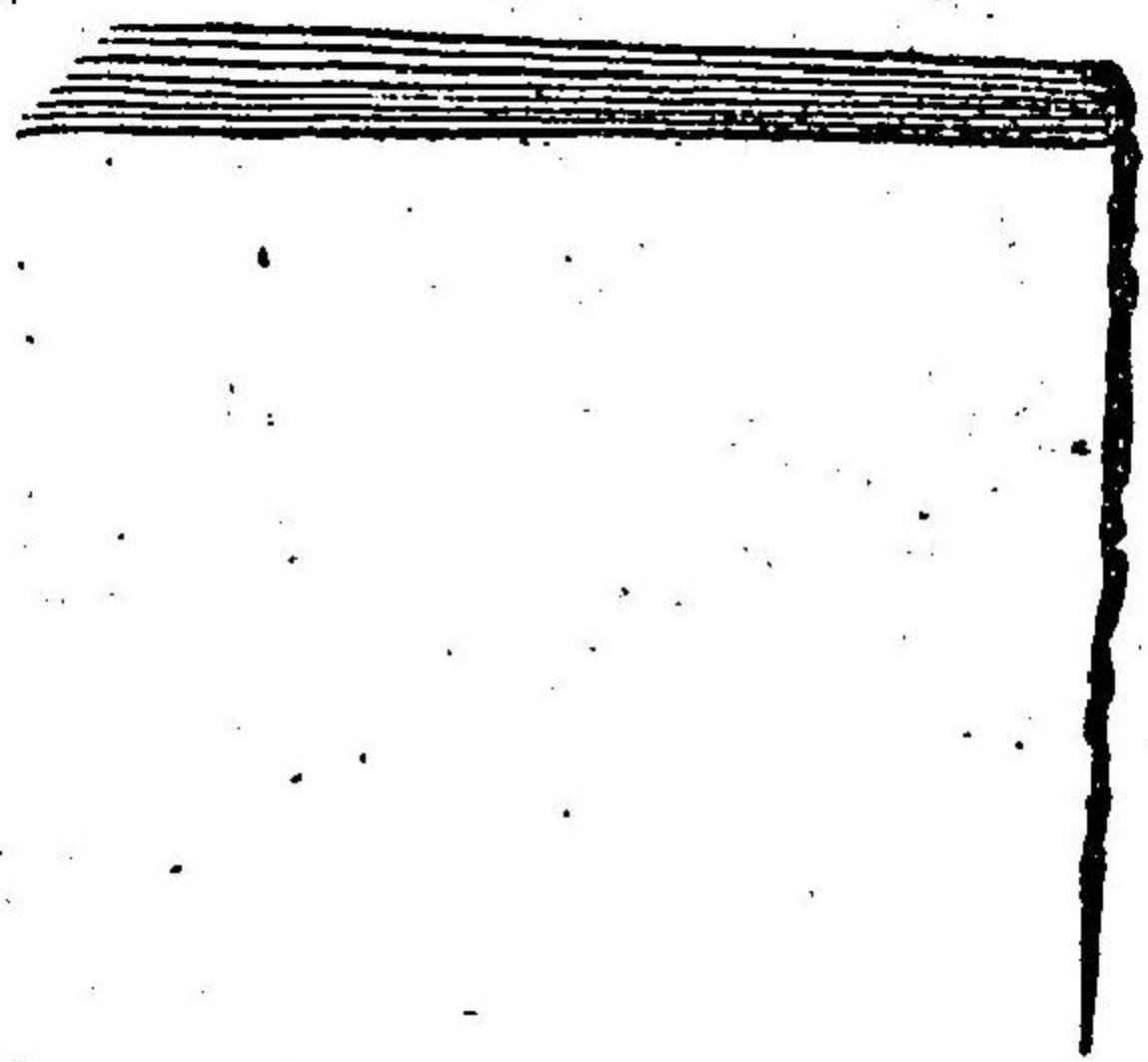
第一圖



ハ鮮紅色ノ血
液第一圖ノ如
ク噴出スル者
ナリ

靜脈ハ根ヲ毛
細管網ニ取リ
其細根漸々集
合シテ大幹ト
ナリ遂ニ心臓

第二圖

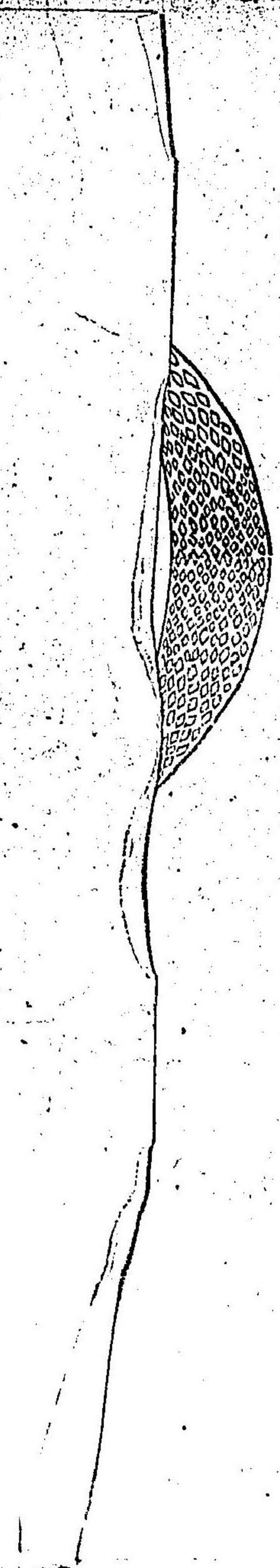


九

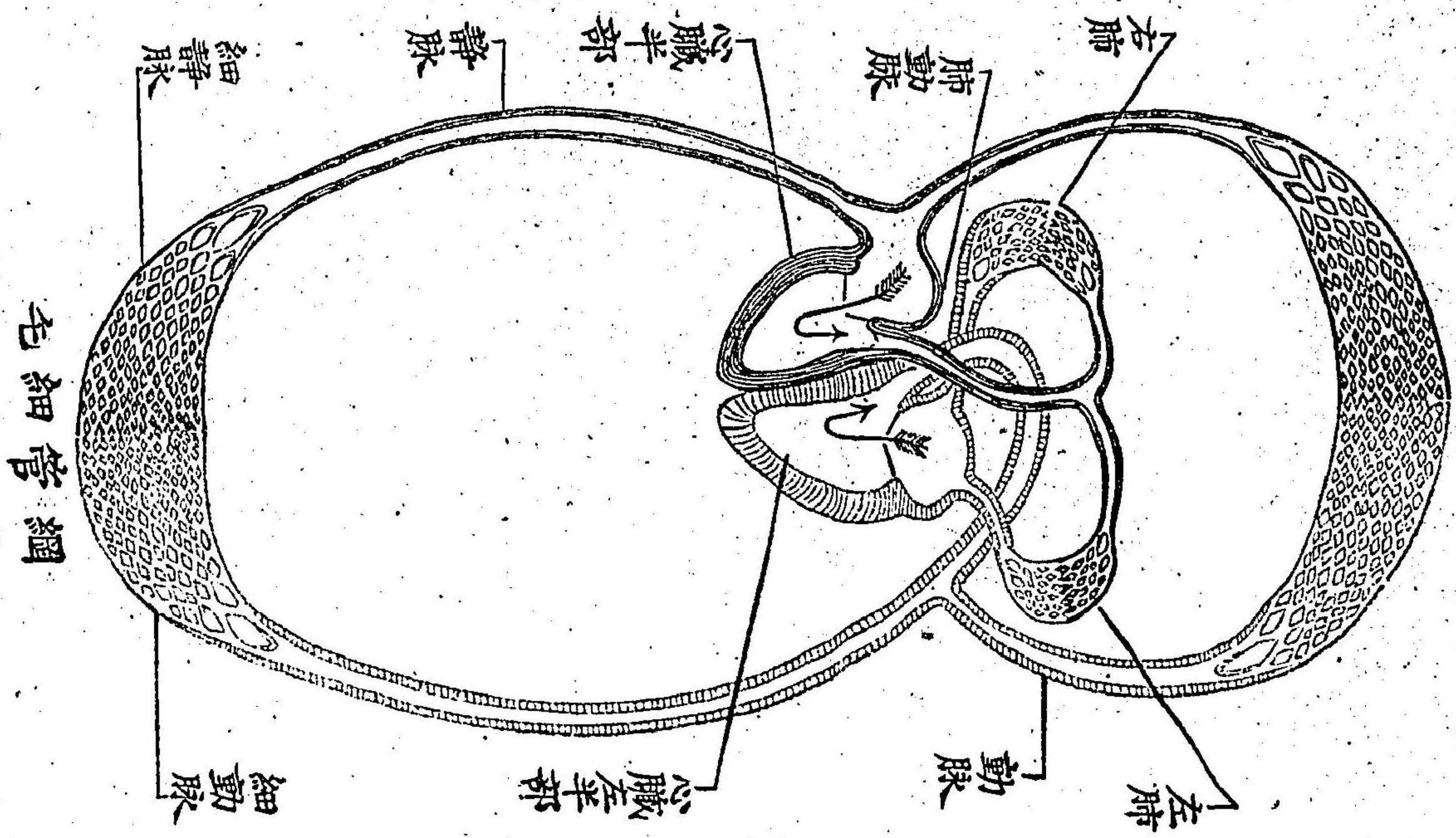
○一

ニ達ナル者ナリ其壁質薄弱ニシテ彈力ニ乏シ
 シ空虚ナレハ弛緩ス其血液ハ暗赤色ニシテ流
 勢緩徐ナリ故ニ靜脈ノ一部ヲ斷切スルキハ
 暗赤色ノ血液第二圖ノ如ク流出スル者ナリ
 前陳ノ如ク動脈血ノ鮮紅色ナルハ酸素ヲ有
 シ靜脈血ノ暗赤色ナルハ多ク炭酸ヲ有スル
 ニ由ル而シテ鮮紅色ナル動脈血ハ心臟ノ左半
 部ヨリ流出シ身體諸部ヲ經流スルノ間毛細
 管網ニ於テ其部ニ酸素ヲ分與シ又其部ヨリ

圖三第



第三圖



炭酸ヲ攝取シ暗赤色ナル血液ト成リテ靜脈
ニ移リ心臟ノ右半部ニ歸流シ更ニ肺動脈ニ
由テ肺臟ニ灌漑シ茲ニ吸酸除炭ノ作用ニ由
テ再ヒ鮮紅色ナル動脈血ト成リ肺靜脈ニ由
テ心臟ノ左半部ニ歸流スル者ナリ(第三圖ヲ

參觀セヨ) (第三圖)

(十)出血ハ血色鮮紅ニ噴出スル者ハ危険ナル
カ故ニ瞬時モ放過スルコトナク即時止血ノ法
ヲ施スヘシ其法ハ第四圖ノ如ク指ヲ出血ス

二一

ル創内ニ挿入シテ脈管
 ノ切口ヲ押壓シ或ハ創
 ノ周圍ヲ強壓スル者ニ
 ソ即チ之ヲ直壓法ト云
 フ此法ハ最モ簡易コソ
 久シキニ堪へ得ルキハ
 其効確實ナリトス又創
 口ヲ隔テ遠ク創處ノ上
 部ニ於テ其脈管ノ通路

第四圖

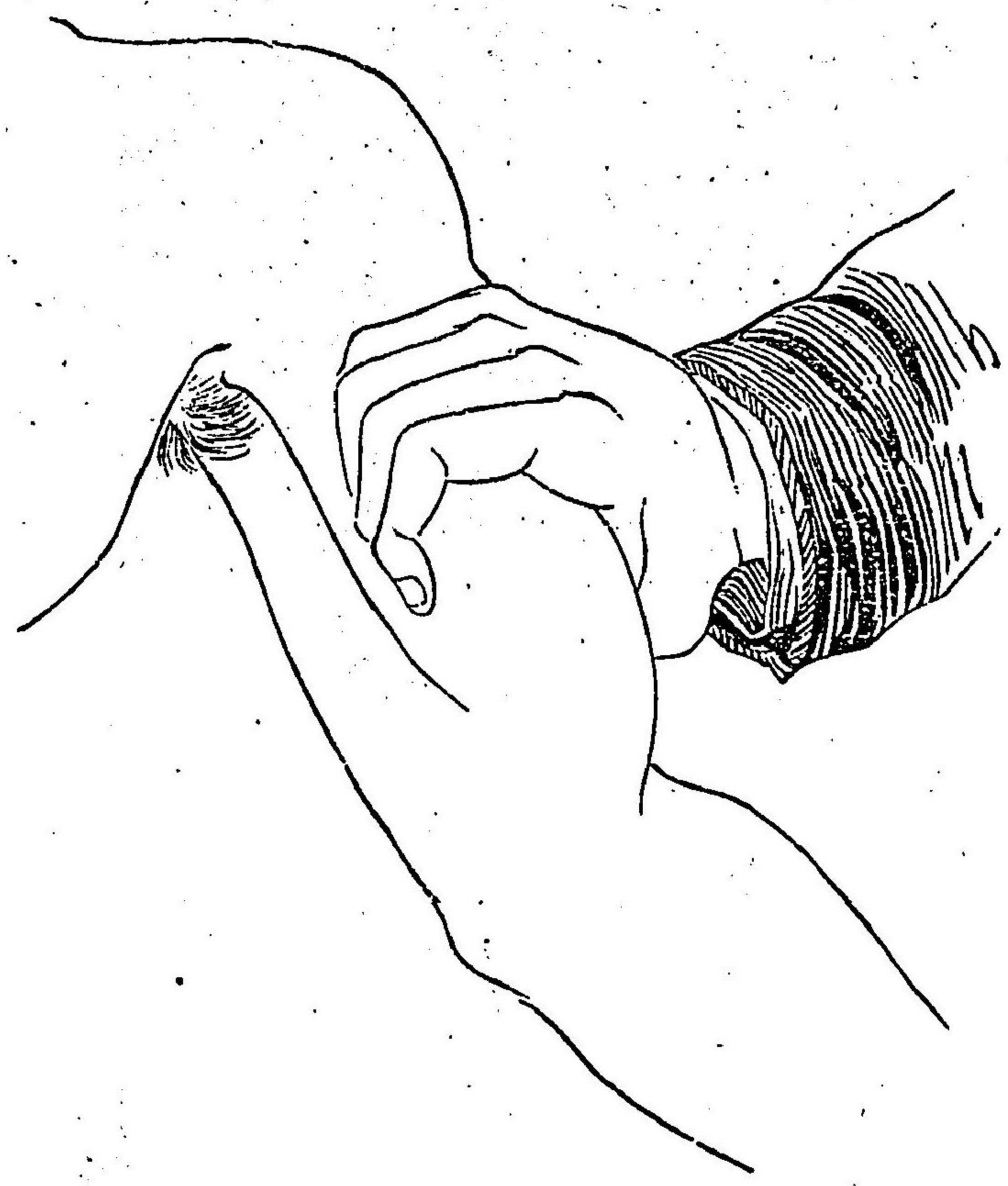


三一

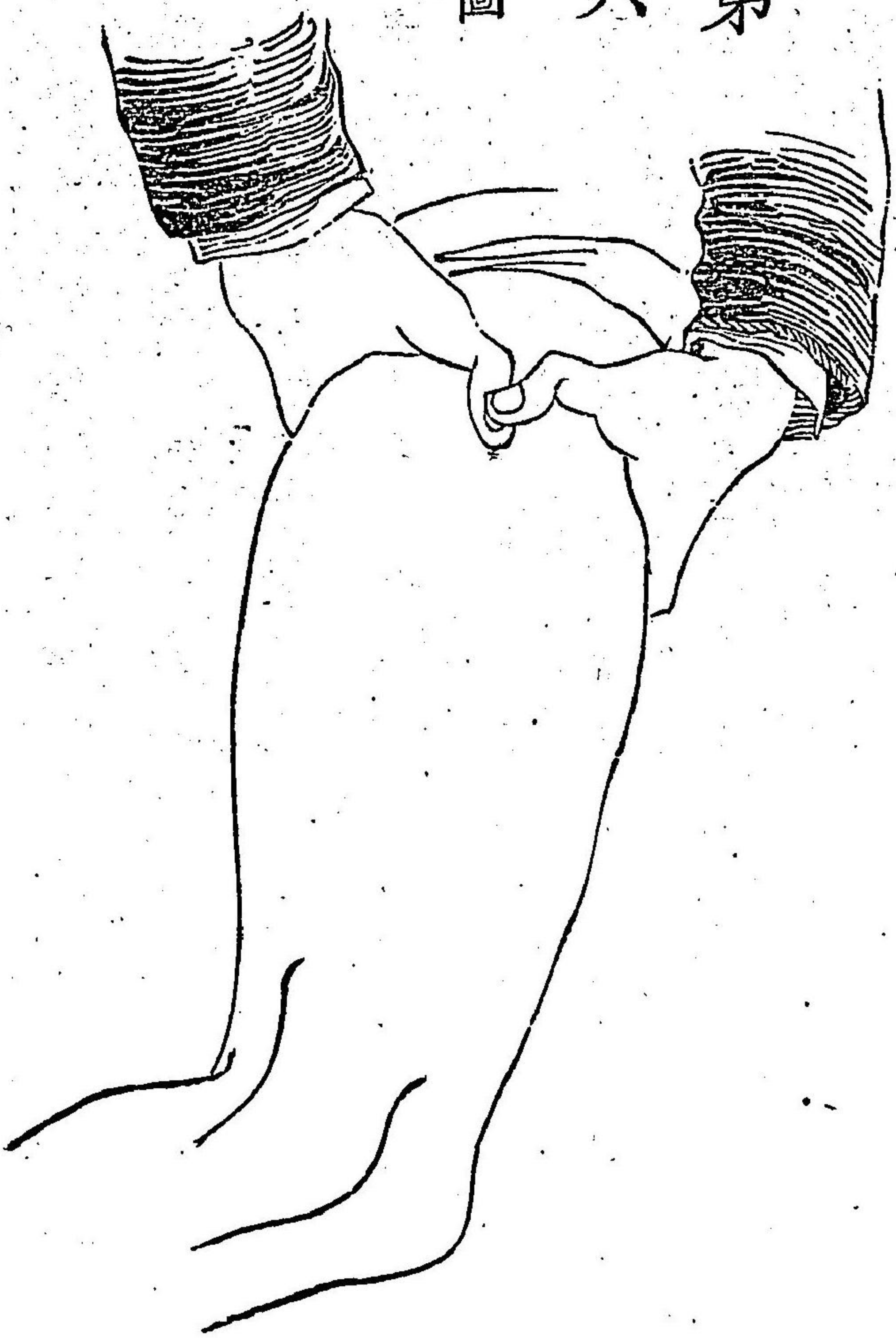
チ拇指或ハ諸指ニテ強壓シテ血ヲ止ムルノ
 法アリ之ヲ間壓法ト云フ此法ハ四肢ノ創傷
 ニノ出血甚シキ者ニ緊要トス即チ速ニ左手
 チ以テ先ツ直壓法ヲ行ヒ血ヲ失ハサラシメ
 而シテ右手チ以テ間壓法ヲ施スヘシ右手ノ間
 壓其當チ得ルキハ左手ノ直壓チ放ツモ創口
 ヨリ出血スルコトナキチ以テ徐々ニ左手チ離
 シ更ニ右手ノ勞ヲ助クヘシ若シ二人ニテ救
 護スルキハ一人ハ速ニ直壓法ヲ施シ一人ハ

間壓法ヲ行フチ最モ良トス
 間壓法ヲ施スニハ動脈ノ淺處ニ位ノ壓迫シ
 易キ部ヲ擇フヘシ即チ上肢ニ於テハ上膊前
 面ノ筋肉隆起シタル處ノ内側ニアリ(第五圖ヲ見ヨ)
 下肢ニ於テハ先ツ上腿部ヲ三分シ其三分一
 ノ上部ニ内側ニアリ(第六圖ヲ見ヨ)

第五圖



第六圖



(十一)間壓法ニ種々ノ止血器ヲ用ユルノ法アリ
 然レモ其器ノ備ナキモハ布巾ニ木片或ハ小
 石ヲ包テ小枕子ト爲シ之ヲ前項ノ間壓法ヲ
 施スト同一ノ部ニ當テ其上ヨリ手拭細帶等
 ニテ緊縛スヘシ或ハ單ニ手拭布片等ノ中央
 部ヲ結ヒ其結ヒ目ヲ脈管上ニ當テ小枕子ノ
 代リトナシ其兩端ヲ以テ緊縛スルモ可ナリ
 又創ノ部位ニ依テハ布片ヲ疊ミ直ニ創口ヲ
 掩ヒ其部ヲ身體ノ他部ニ密接シ手拭紐帶等

チ以テ共ニ緊綴スルコトアリ又鼻中、肋間、腔内、
等ノ如キ深部ノ出血ニシテ以上ノ止血法ヲ施
シ難キハ、海綿、糸珠、布片、綿花ノ類ヲ固ク創
内ニ充填シテ血ヲ止ムヘシ凡ソ出血止ムト
雖モ漫リニ繃帶止血具等ヲ去ル可ラズ再出
血ノ慮アレハナリ

（十二）出血全ク止ムカ或ハ未タ止マサルモ些少
ナラハ布片ヲ二三ニ疊ミ直ニ創口ニ貼シ其
上ヨリ手拭、布片等ヲ以テ適宜ニ繃縛スヘシ

創傷四肢ニ在テ骨傷ヲ兼ヌル者ハ可成的患
肢ノ位置ヲ正クシ副木ヲ其外側ニ當テ滑脱
動搖セサル様注意シ繃縛スヘシ但シ副木ニ
ハ竹、木片、鐵葉板、板紙、其他ノ物ヲ以テ臨時之
ニ應用シ又身體諸部ニ乾着セシ血ハ叮嚀ニ
拭ヒ去ルヘシ

第三款

毒創

九一
（十三）毒創トハ狂犬、毒蛇、又ハ有毒ノ箭等ニ由テ

起ル者ニシテ其毒全身ニ蔓延スルキハ頗ル危
 險ナリ故ニ之ヲ救助スルニハ先ツ創傷ノ上
 部ヲ手拭、紐帶、護謨管等ヲ以テ緊縛シ且ツ創
 處ノ毒物ヲ口ニテ吸取スヘシ然レモ救者ノ
 口内ニ損傷アルキハ吸取ス可カラズ却テ其
 毒ヲ感受スルノ恐レアレハナリ而シテ澁汁又
 ハ礫砂精等ヲ塗布シ布片ヲ當テ其上ヨリ手
 拭、細帶等ニテ縋縛スヘシ

第四款

打撲傷、骨折傷、脱臼

(十四) 打撲ニ由テ生スル腫起疼痛、ハ皮膚損壞ノ
 有無ニ關セス冷水ヲ布片ニ蘸シ直ニ之ヲ貼
 ヲ縋縛スヘシ四肢ノ打撲ハ冷水ヲ盛リタル
 桶中ニ患肢ヲ浸漬スルモ可ナリ又打撲ノ胸
 腹部ニシテ時間ヲ經タル後チ刺スカ如キ劇痛
 ナク發シ甚シク惡寒スル者ハ重症ノ徵ナリ極
 メテ安靜ニシ且ツ患部ヲ冷スチ緊要トス又
 打撲ニ由テ氣絶スル者ハ第二十六項ニ示ス

カ如ク處置スヘシ

(十五) 衄血甚シキ者ハ速ニ頸胸ヲ檢束セル衣襟
 ナ弛ルメ身體ヲ安靜ニシ綿織糸若クハ綿花
 紙片等ヲ深ク鼻中ニ插入シ氷或ハ冷水ヲ以
 テ前頭及頂部ヲ冷スヘシ且ツ患者ノ頭部ヲ
 前ニ屈セシメサルヲ要ス若シ出血止マサレ
 ハ酢或ハ少許ノ明礬又ハフシノ粉ヲ冷水ニ
 和シ患者ニ強ク之ヲ嗅入セシメ且ツ男子ハ
 陰囊婦人ハ兩乳房ヲ水ニテ冷スヘシ

(十六) 骨折傷ハ可成的苦痛ナキ様安靜ニ保護ス
 ルヲ以テ專一トス故ニ第十二項ニ示スカ如
 シ患肢ノ位置ヲ正シクシ副木ヲ其外側ニ當
 テ適宜ニ之ヲ縛スヘシ或ハ上肢ニ在テハ
 患肢ヲ伸シ軀幹ニ接メ共ニ繃帶シ或ハ曲ケ
 テ胸腹上ニ安置シ健手ヲ以テ自ラ之ヲ支持
 セシム下肢ニ於テハ健足ヲ伸シテ副木ノ代
 リトシ布片ヲ以テ共ニ數處ヲ縛スヘシ又
 創傷ヲ兼ヌル者ハ第二款ニ示スカ如ク之ヲ

四二

處置シ打撲アラハ水ヲ以テ其部ヲ冷スヘシ
 (十七)脱臼トハ骨ノ關節面互ニ脫離シ固有ノ運
 動ヲ營ム能ハサルモノヲ云フ而シテ其現症各
 關節差異アリト雖モ概ノ之ヲ謂ヘハ其長サ
 ヲ變シ短縮シ或ハ延長シ骨頭ノ轉位ニ由テ
 變位變形ヲ見ハシ且ツ腫起ヲ見ル試ミニ患
 部ヲ動セハ疼痛ヲ發スルモノナリ之ヲ救護
 スルニハ速ニ整復術ヲ施サハル可ラスト雖
 モ下顎關節ヲ除クノ外其術複雑ナルヲ以テ

五二

習練ナキ者ノ能ク施シ得ヘキニアラス故ニ
 患部ヲ安靜ニシ速ニ醫療ヲ求ムルノ手續ヲ
 ナスヘシ而シテ下顎脱臼ヲ整復センニハ先ツ
 患者ヲ椅子ニ倚ラシメ救者ハ其前ニアリ介
 者ハ後方ヨリ患者ノ頭顱ヲ固持シ而シテ救者
 ノ兩拇指ニ布片ヲ纏ヒ拇指ノ腹部ヲ患者ノ
 最後臼齒ニ措キ諸指ヲ以テ顳ヲ擡起シ且ツ
 後方ニ推スキハ容易ニ整復シ得ヘシ

第五款

熱傷

(十八) 熱傷ハ火傷、湯潑傷、電傷ヲ問ハス又傷度ノ如何ニ關セズ阿列布油若クハ胡麻油等ニ蘸シタル布片ヲ以テ直ニ傷部ヲ掩ヒ輕ク綑帶スヘシ指趾ノ熱傷ニシテ表皮ノ脫離セル者ハ指ト指トノ間ニ油ヲ塗り布片ヲ插ミテ指ノ互ニ癒着スルヲ防クヘシ又直ニ傷部ヲ冷水中ニ浸入スルモ可ナリ水泡ヲ生スルモノハ之ヲ破開シ水液ヲ洩ラスモ決シ其表皮ヲ

剝取スヘカラス

(十九) 輕度ノ熱傷ト雖モ其部廣大ナルキハ身體厥冷、呼吸困難等ノ諸險症ヲ發スルモノナリ宜シク酒類氣附藥等ヲ與フヘシ又電擊ノ爲メニ氣絶スル者ハ第二十六項ニ示スカ如ク處置スヘシ

第六款

凍傷

(二十) 凍傷輕キ者ハ指趾若クハ鼻、耳、其重キ者ハ

全手、全脚之ニ罹リテ強梗ト成リ脆クシテ碎
拆シ易キニ至ル故ニ之ヲ把持スル最モ注意
セサル可ラス其甚シキハ全身凍返ノ假死ニ
陷ルモノナリ

(二十一)凍傷者ハ決ノ急遽ニ之ヲ温ム可ラス先
ツ火氣ナキ室内ニ移シ凍部又ハ全身ヲ雪ニ
テ摩擦シ若シ雪ナケレハ冷水ヲ布片ニ蘸シ
之ニ代フ假死ニ陷ル者ニハ人工呼吸術ヲ施
シ而シテ體温微々生シ呼吸漸ク復スルニ至レ

ハ除カニ身體ヲ温護シ温茶ニ酒類ヲ加ヘテ
頻々之ヲ與フヘシ又凍部漸ク解クルニ至レ
ハ其部劇痛ヲ發ス然ルキハ再ヒ雪ヲ以テ痛
處ヲ冷ヤスヲ良トス

第七款

負傷者運搬法

(二十二)凡ソ負傷者ヲ運搬スルニハ擔架、人力車、
駕籠、釣臺、戸板、階子等便宜之ヲ應用スヘシ而
シテ傷部ハ少シク高クシテ摩擦衝動セシム可

ラズ又時々其顔貌ニモ注意スヘシ

(二十三)徒手ニテ患者ヲ運搬スル時一人ニテ之ヲ運フニハ背ニ負フヘシ二人ニテ運フニハ相對立シテ握リタル一手ヲ以テ患者ノ兩股下ヲ受ケ相握リタル他手ハ其背部ヲ支ヘ以テ患者ヲシテ半臥狀ヲ爲サシメ其右手ハ右者ノ右肩ヲ把持シ左手ハ左者ノ左肩ヲ把持セシム或ハ甲ノ右手自己ノ左腕ノ中央ヲ握リ其左手ハ乙ノ右腕ノ中央ヲ握リ乙ハ其右

手ヲ以テ甲ノ右腕ノ中央ヲ握リ以テ患者ノ坐臥ニ供シ而シテ乙ノ左手ハ甲ノ右肩ヲ把持シ以テ患者ノ背部ヲ保護スヘシ

第八款

卒倒

(二十四)俄然精神昏憤シテ卒倒スル者ニハ直ニ單一ノ救急法ヲ施シ以テ患者ヲ速ニ醒覺セシメ或ハ堪ヘ易カラシムヘシ而シテ卒倒ヲ致スノ病ハ數般ニシテ處置モ又從テ小異ア

リ故ニ左ニ其大要ヲ掲ク

(二十五)腦卒中ハ人事不省トナリ卒倒シテ呼吸

ニ鼾聲ヲ發シ顔面紫赤色或ハ蒼白色ニ變シ

全身或ハ半身麻痺等ノ諸症ヲ發ス此ノ症ニ

ハ直ニ身體ヲ束縛セル衣帶ヲ解放シ患者ヲ

ノ半坐狀ニ臥セシメ氷又ハ冷水ヲ以テ頻リ

ニ頭部ヲ冷シ脚ノ後面ニ芥子泥ヲ貼シ耳後

ニ水蛭各八九條ヲ放テ射血スヘシ

(二十六)氣絶ハ打撲其他身體ノ劇動神氣ノ疲勞

非常ノ精神感動若クハ亡血、高熱等ニ原因ス

ル者ニノ眩暈、嘔逆、顔色蒼白ニ變シ冷汗ヲ流

シ昏倒ノ呼吸幽微トナリ甚シキハ一時生機

ヲ失スル如キニ至ル此症ニ於テモ亦束縛ス

ル衣帶ヲ弛ルメ直ニ患者ヲ扶起シ自ラ患者

ノ背ニ跪居シ患者ノ背部ヲ自身ノ胸上ニ支

持シ右手ヲ以テ軀幹ヲ抱キ左手ヲ以テ頭部

ヲ保持スヘシ然レモ亡血ニ由ル者ハ平臥セ

シメテ枕ヲ置カサルヲ良トス而シテ空氣ノ流

四三

通チ善クシ面上及胸部ニ冷水ヲ散布シ或ハ
水ヲ口内ニ注キ或ハ高聲ニ喚呼ノ之ヲ醒覺
セシメ胸脇ヲ摩擦シ足心ニ艾灸ヲ點シ或ハ
紙捻リヲ深ク鼻中ニ入レ或ハ熱酢ヲ嗅カシ
メ患者若シ嚔下シ得レハ冷水酒類氣附藥等
ヲ飲マシムヘシ

(二十七) 醉倒者ハ先ツ衣帶ヲ解放シ頭部ヲ高フ
シテ寒冷ノ室内ニ安臥セシメ氷又ハ冷水ヲ
以テ頻リニ頭部ヲ冷ヤシ酒尙胃中ニ停滯ス

ト認ムレハ羽毛ヲ深ク口内ニ入レテ咽頭ヲ
擦クリ以テ嘔吐ヲ促スヘシ重症ニ於テハ耳
後ニ水蛭各八九條ヲ放テ射血シ全身ヲ摩擦
シ脚ノ後面ニ芥子泥ヲ貼シ濃茶ヲ與ヘ窒息
セントスル時ニハ速ニ人工呼吸術ヲ施スヘ
シ

五三

(二十八) 癲癇ハ大叫號ヲ發シ神識知覺ヲ失フテ
顛仆シ呼吸閉止シ四肢伸展シ目ヲ開キテ直
視シ恰モ假死ノ狀ヲ呈シ又暫時ニシテ眉額

六三

ヲ擦覺シ眼目口吻ヲ開閉シ齩齒シ流涎シ或
ハ泡沫ヲ口ニ出ス此症ニ於テハ發作ノ際ハ
患者ヲ安臥セシメ木片或ハ紙片ヲ上下ノ齒
間ニ挿入シ以テ舌ノ咬傷ヲ防クヘシ但シ誤
テ咽喉ニ陷ラサル様注意スヘシ
已ニ醒覺スルニ及ンテ飲液ヲ與フルニハ猶
木腕或ハ匙ノ類ヲ以テシ決メ硝子器陶器等
ヲ用ユ可ラス嚙碎シテ口唇ヲ傷クルノ虞ア
レハナリ

七三

(二十九)日射病ハ炎熱ノ時暑ヲ胃ノ力役スル者
ニ多シトス其症タルヤ大渴飲ヲ欲シ頭熱灼
クカ如ク顔面赤色ヲ發シ呼吸促迫シ甚シキ
ハ歩行蹣跚トシ遂ニ昏倒スルニ至ル先ツ衣
帶ヲ弛シ頭部ヲ高フノ安臥セシメ空氣ノ流
通ヲ善クシ水ヲ以テ頭部ト胸部ヲ冷シ且ツ
水ヲ飲マシメ呼吸廢絶スル者ニハ人工呼吸
術ヲ行フヘシ但シ發汗ナル者ハ胸部ニ灌水
スヘカラス此症ニハ總テ氣附藥ヲ禁ス

八三

(三十)咯血トハ咳嗽時ニ當テ氣管又ハ肺臟ヨリ血液ヲ咯出スル者ヲ云フ而シテ其血色鮮紅且ツ泡沫ヲ含ムモノナリ此症ニ於テハ患者ヲ半坐狀ニ安臥セシメ言語ヲ禁シ氷或ハ冷水ヲ以テ胸部ヲ冷ヤシ食鹽四匁許ヲ水ニ和ソ頓服セシムヘシ

(三十一)吐血トハ胃ヨリ血液ヲ吐出スル者ヲ云フ而シテ其血色暗赤且ツ食物ヲ混スル者ナリ此症ニ於テハ身體ヲ安靜ニシ頻リニ氷片ヲ

嚥下セシメ氷或ハ冷水ヲ以テ胃部ヲ冷スヘシ

第九款

假死

(三十二)精神、知覺、運動ノ三機ハ勿論呼吸、脈搏、體溫、等ノ有無殆ント決シ難ク外觀上恰モ死者ノ如キテ假死ト云フ蓋シ呼吸、脈搏等速ニ復セサレハ遂ニ眞死ニ陥ル者ナリ而シテ其原因ハ絞縊、溺水、窒息、凍返、及中暑等是ナリ救肋法

九三

○四

ハ人工呼吸術ヲ緊要トス

第十款

絞縊

(三十三)絞縊ハ迅速ニ其紐索ヲ斷テ而シテ直ニ衣帶ヲ脱シ稍頭部及ヒ胸部ヲ高フシテ布圍若クハ藁薦等ノ上ニ安臥セシメ空氣ノ流通ヲ善クシ冷水ヲ布巾ニ蘸シテ頭額ヲ冷ヤシ刷毛、毛布、乾キタル雜巾ノ類ヲ以テ脚ノ後面足蹠及ヒ手掌等ヲ間斷ナク摩擦シ兼テ人工呼

一四

吸術ヲ施スヘシ且ツ頸部ノ脈管怒脹シテ顔面紫赤色ニ變セル者ハ耳後ニ各八九條ノ水蛭ヲ貼シテ射血スヘシ縊者幸ニ蘇生シ飲液ヲ通スルニ至レハ少シク水茶酒類等ヲ飲マシムヘシ但シ最初紐索ヲ斷ツキハ縊者ヲ抱持シテ顛仆セシメサル様注意スヘシ即チ救者一人ナレハ第七圖ノ如ク一手ヲ以テ縊者ヲ抱持シ一手ヲ以テ縊索ヲ解放シ若シ二人ナレハ第八圖ノ如ク一人ハ縊者ヲ抱持シ一

三四



第八圖

二四

第七圖



四四

人ハ縊索ヲ解放スヘシ

第十一款

。溺水

(三十四)溺者ヲ水中ヨリ援ヒ上クレハ直ニ其衣服ヲ脱シテ裸體ト爲シ口鼻ヲ檢シテ泥石泡砂等ノ穢物アラハ之ヲ除去シ右方ヲ下ニシ側臥セシメ稍頭部ヲ擡起シテ水ノ流出ニ便ナラシメ且ツ足部ヲ高フシ腹部ヲ按壓シ吐水ヲ促スヘシ若シ溺者ヲ戸板ノ上ニ載スル

キハ之ヲ爲スニ最モ便易ナリトス此ノ如ク所置スルハ二三分時ニ過ク可ラス

附言溺者ニ吐水セシムルノ際右方ヲ下ニシ

側臥セシムルハ緊要ナリ若シ誤テ左方ヲ

下ニシ側臥セシムルカ如キハ必ス其目的

ヲ達スル能ハサルヘシ何トナレハ人體内

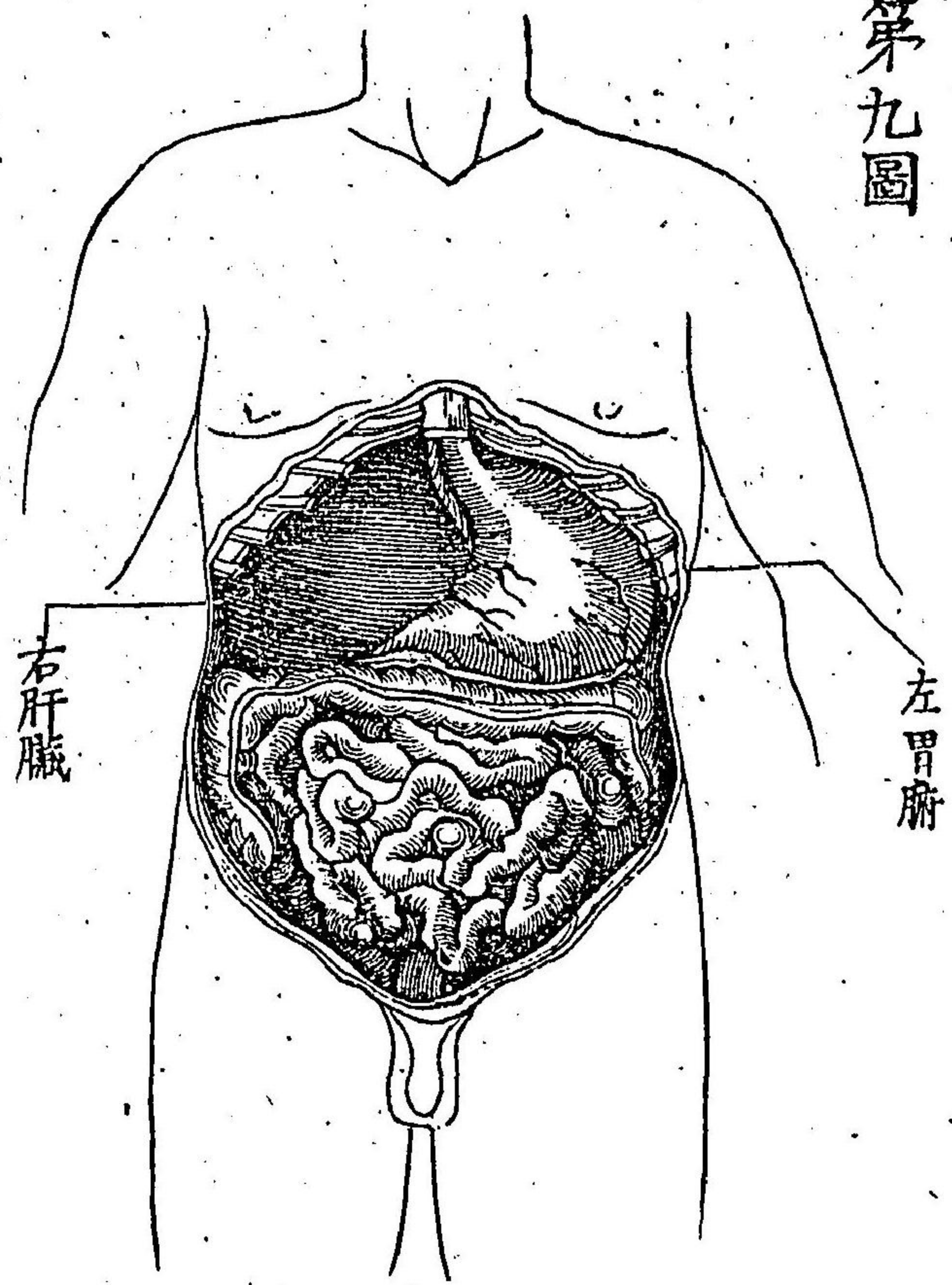
臓ノ位置第九圖ノ如ク胃ハ左側ニ位シ肝

臓ハ右側ニ位スル者ナレハナリ

五四

(三十五)既ニ水ヲ吐出スレハ毛布若クハ温和ノ

第九圖



衣ヲ以テ身體ヲ被包シ蓐上或ハ藁上ニ安臥
 セシメテ稍頭部及ヒ胸部ヲ高フシ速ニ人工
 呼吸術ヲ施シ兼テ衣上ヨリ間斷ナク四肢ヲ
 摩擦スヘシ

三十六溺者自ラ呼吸センノスルノ狀アラハ人
 工呼吸術ヲ休止シ礪砂精若クハ熱酢ヲ嗅カ
 シムヘシ而シテ呼吸回復スレハ更ニ煖メタル
 毛布綿花若クハ温石湯タンボ等ヲ以テ脚及
 腹部ヲ温メ尙ホ四肢ヲ摩擦シ若シ嘔氣ヲ催

八四

セハ羽毛ニテ咽喉ヲ擦リ以テ速ニ其吐ヲ促スヘシ又能ク嚥下スルヲ得ルニ至レハ少量ノ茶酒類氣附藥等ヲ與フヘシ

第十二款

窒息

(三十七)炭酸瓦斯、窒素瓦斯、燈用瓦斯、火藥爆裂ニ因ル瓦斯等ノ古井、礦坑、深窖、密室等ニ充盈シアルヲ知ラスシテ其内ニ入り或ハ之ヲ吸入シテ窒息シ假死ニ陥ルキハ先ツ患者ヲ開豁

清良ノ空氣中ニ移シ速ニ其衣服ヲ脱シ頭部ヲ冷ヤシ布片ヲ醋ニ蘸シテ全身ヲ拭ヒ人工呼吸術ヲ施スヘシ

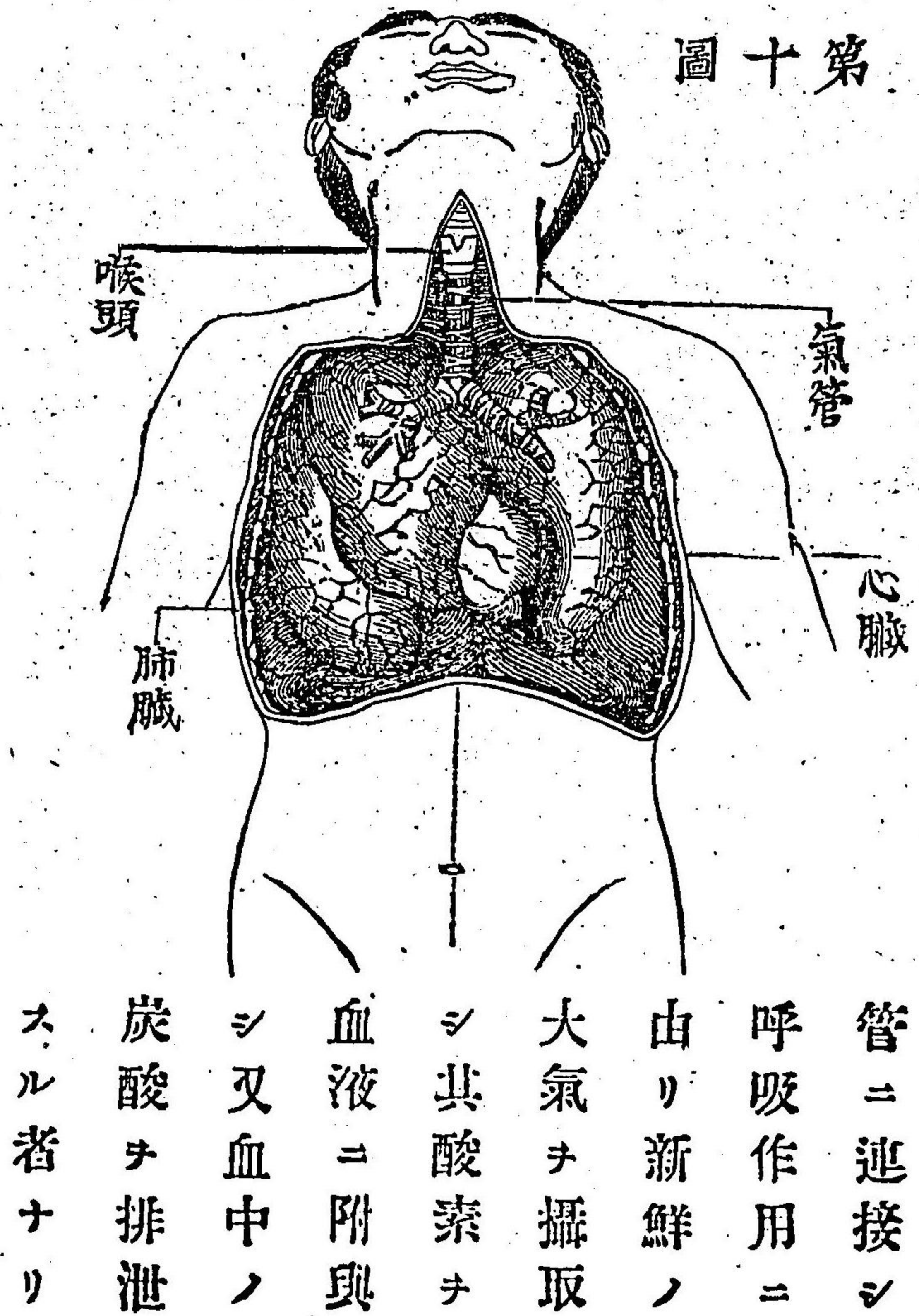
第十三款

人工呼吸術

(三十八)人工呼吸術ヲ施サンニハ先ツ吾人呼吸ヲ營ム處ノ機官即チ呼吸器ノ大要ヲ知ラサル可ラス而シテ呼吸器ノ主部ヲ肺臟ト名シ肺臟ハ第十圖ノ如ク胸腔内ニ位シ喉頭及ヒ氣

九四

第十圖



(三十九)人工呼吸術トハ救者ノ力ヲ以テ假死者

ノ呼吸器ヲ縮張セシメ自然呼吸ノ作用ニ擬

シテ以テ之カ回生ヲ圖ルノ術ヲ云フ即チ左

ニ三種ノ法ヲ示ス便ニ從テ之ヲ行フヘシ蓋

シ施術八九分時乃至三四十分時ニシテ回生

スルヲ常トスレモ第四十七項ニ揚クル如キ

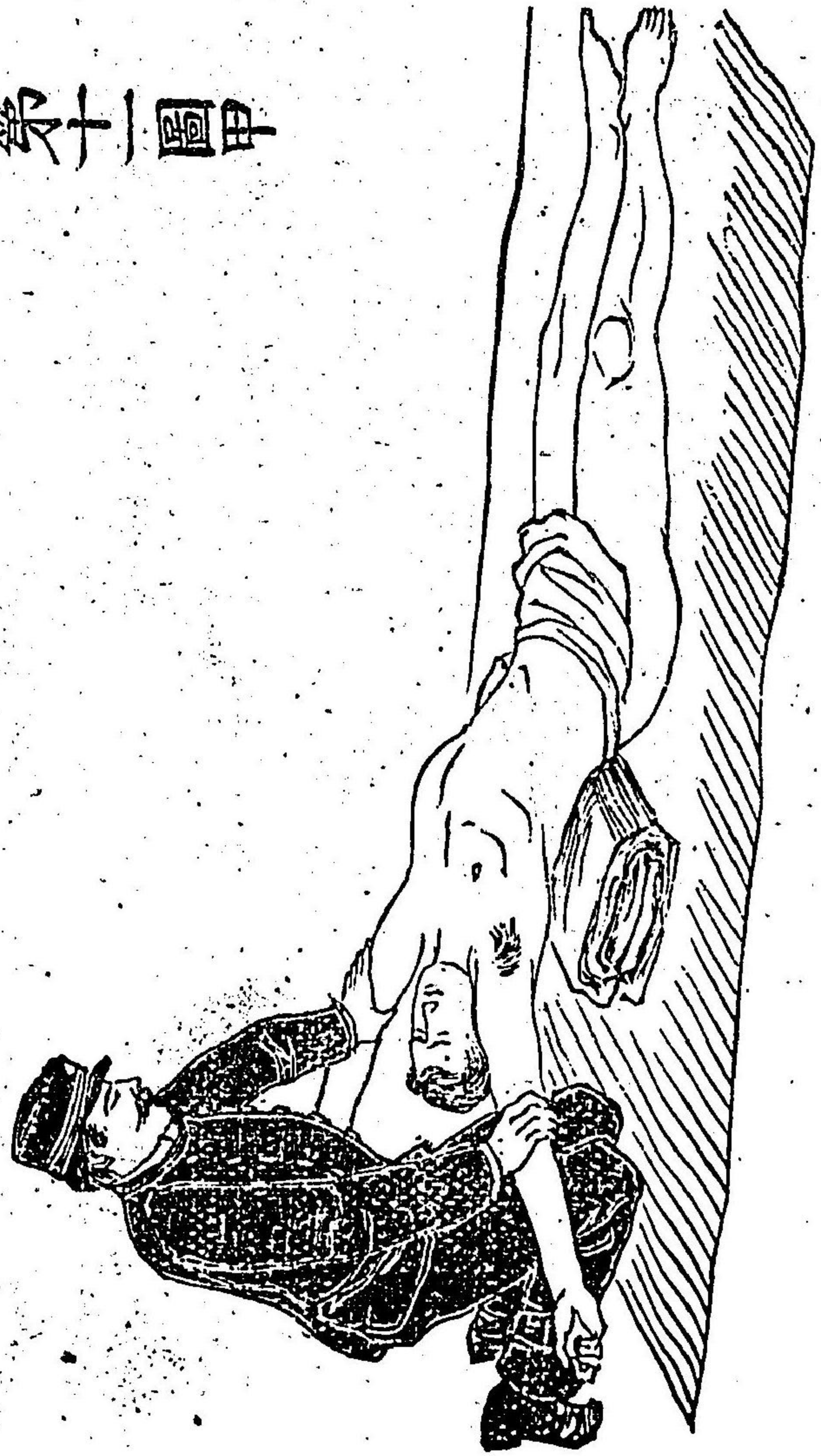
眞ノ死徵ヲ顯ハスニ非サレハ假令數時間ニ

至ルモ決シテ休止スヘカラス

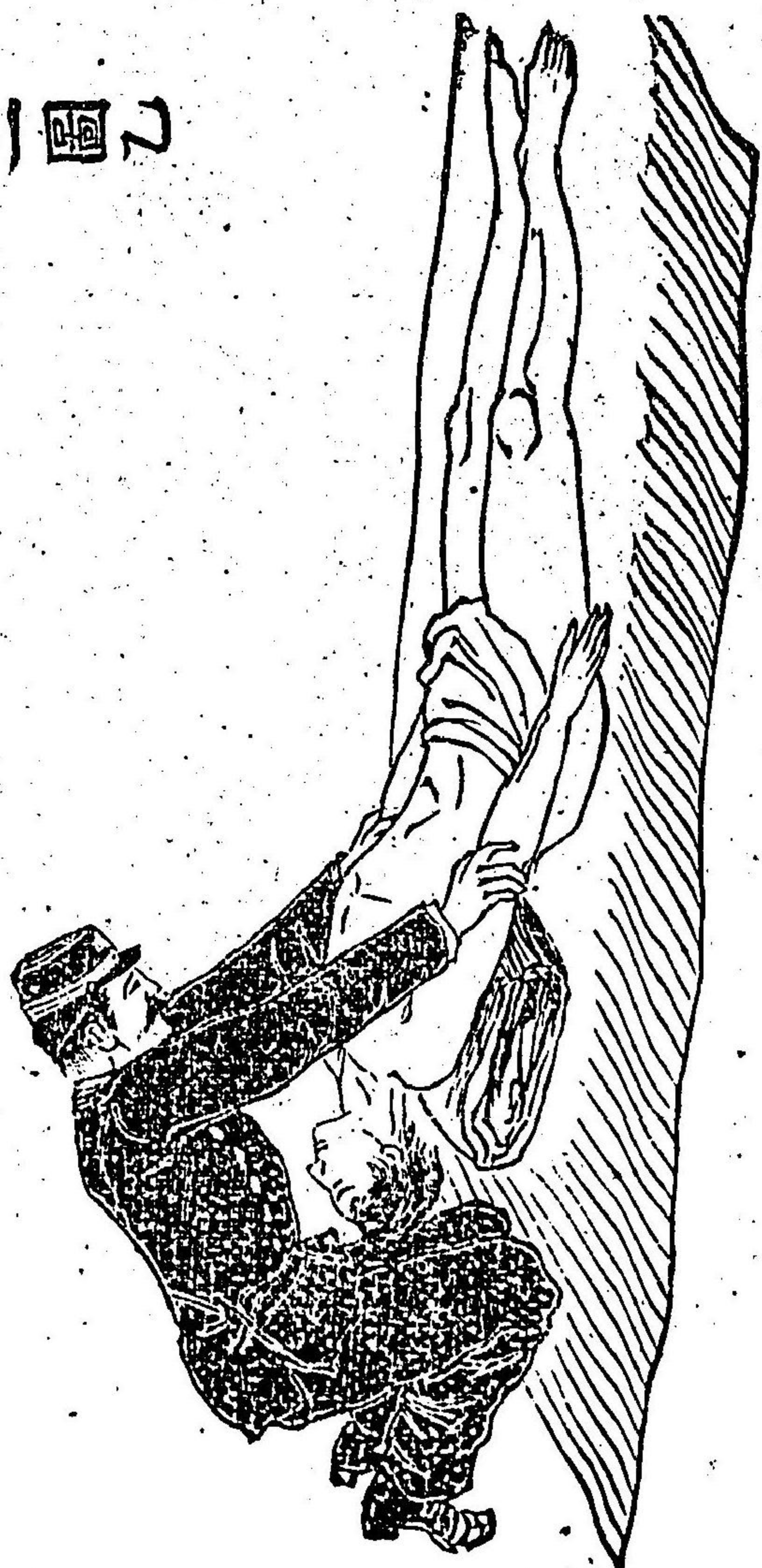
一五 (其一)獨乙法ト名クル者ニシテ毛布衣服等ヲ卷

東シ患者ヲシテ仰臥セシメ之ヲ其背下ニ置
 キ頭部ヲ稍々胸部ヨリ低フシ一ノ救者ハ患
 者ノ口ヲ開キ或ハ布片ヲ以テ舌ヲ捲キテ前
 下方ニ引キ出シ他ノ救者ハ患者ノ頭邊ニ在
 リテ患者ノ兩臂ヲ上膊ニ於テ把握シ之ヲ舉
 上シテ患者ノ頭上ニ至リ胸廓及ヒ肺臟ヲ開
 張シ空氣ヲシテ肺中ニ流入セシムルヲ大約
 二秒時ニシテ(第十一圖甲)更ニ病者ノ手臂ヲ下ケテ
 胸側ニ至ラシメ傍ラ胸側ヲ壓迫シテ肺中ノ

第十一圖甲



第十圖



空氣ヲ呼出セシムヘシ(第十一圖)即チ此ノ如ク

一分時間凡ソ十五回反復上下スルヲ要ス

(其二)亞米利加法ト名スル者ニノ一人ハ第十

二圖ノ如ク患者ノ手臂ヲ舉上シ頭上ニ至ラ

シメテ固持シ他ノ一人ハ兩手掌ヲ以テ患者

ノ上腹部ヲ強壓スルカ或ハ第十三圖甲ノ如

ク患者ノ手臂ヲ屈曲シテ背下ニ敷キ傍テ舌

ヲ牽出固定シ他ノ一人ハ患者ノ腹部ヲ跨テ

蹲キ兩手掌ヲ以テ胸前部ヲ押壓シテ肺中ノ

七五

報十川國甲

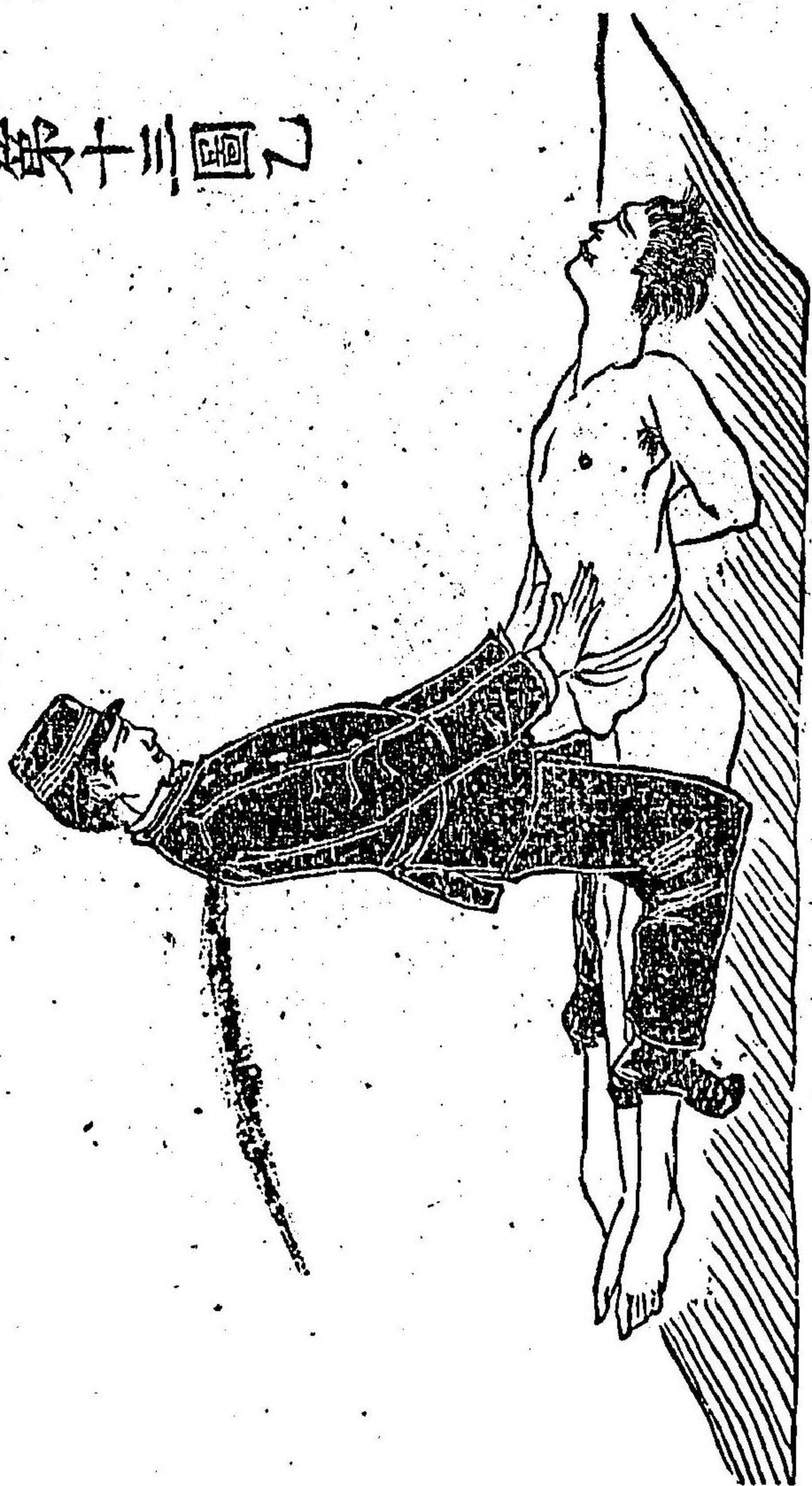


六五

第十圖



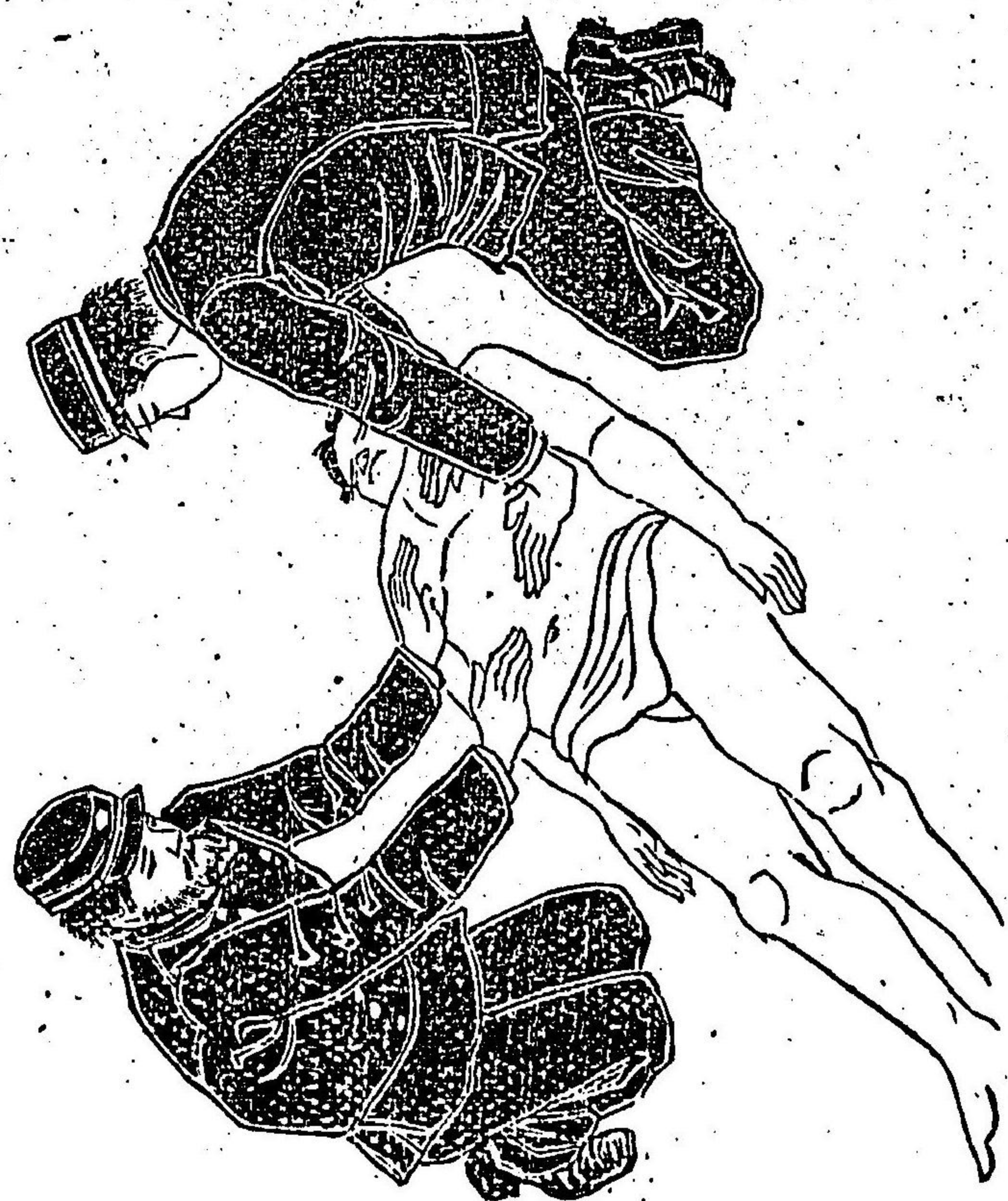
第十三圖乙



空氣ヲ呼出セシメ次テ第十三圖乙ノ如ク其
 壓ヲ止メ胸廓自己ノ彈力ヲ以テ開張スルニ
 方テ外氣ヲシテ肺中ニ侵入セシムヘシ但シ
 反復ノ度數ハ上法ニ全シ

(其三)二人ニテ胸腹ヲ動カス法ニシテ二人ノ
 救者第十四圖ノ如ク仰臥セシメタル患者ノ
 兩側ニ跪キ其右ニアル者ハ左手ヲ以テ患者
 ノ右胸ノ前側部ヲ押ヘ右手ヲ以テ患者ノ上
 腹ノ右半部ヲ押フ其左ニ在ル者ハ右手ヲ以

圖四十四



テ患者ノ左胸ノ前側部ヲ押ヘ左手ヲ以テ患者ノ上腹ノ左半部ヲ押フ而シテ左右一齊ニ強キ壓力ヲ雙手ニ加ヘ次テ其壓ヲ止ムヘシ但シ反復ノ度數ハ上法ニ同シ

第十四款

○中毒

(四十)中毒トハ通例劇毒藥或ハ毒物ヲ吞嚥シテ發スル處ノ症ヲ云フナリ而シテ誤テ中毒スルコトアリ或ハ故意ヲ以テ然ルコトアリ蓋シ其中

毒症タルヲ推知スルハ患者ヲ懇諭シ先ツ其毒質ノ何物タルヲ精細ニ糺スヲ必要トス

(四十一)中毒者ヲ救助スル一般ノ方法ハ先ツ温湯又ハ食鹽或ハ芥子ヲ攪和シタル多量ノ飲液ヲ飲マシメ指若クハ羽毛等ヲ以テ咽頭ヲ擦クリ嘔吐ヲ促シ速ニ胃中ノ毒物ヲ排除セシムルニアリ而シテ後各自其毒質ニ從ヒ救助法ヲ行フヘシ

(四十二)硫酸、硝酸、鹽酸、ノ如キ礦酸ノ中毒ニハ直

ニ石礮水、灰汁、又ハ白堊、壁土、等ヲ水若クハ乳汁ニ攪和シ頻々多量ニ之ヲ與フヘシ

(四十三)生石灰、剝馬亞私、曹達、ノ如キ亞兒加里中毒ニハ油類、醋水、若クハ酸味アル菓實ノ液汁ヲ多量ニ飲マシムヘシ

(四十四)阿片、モルヒ子、ノ中毒ニハ第四十一項ニ示スカ如クニ毒物ヲ排除シ昏睡ニ陥ル者ハ顔面ニ冷水ヲ灌キ頭部ニ水囊ヲ置キ脚ノ後面ニ芥子泥ヲ貼シ且ツ兩手ヲ取リテ頻

四六

リニ歩行セシメ濃茶又ハ濃咖啡ヲ與フヘシ
(四十五)砒石ハ彩色品トシ供用セラル、者ナル
ヲ以テ屢々中毒ヲ來スコトアリ之ヲ救助スル
ニハ前項ニ於ケルカ如ク先ツ毒物ヲ排除シ
而シテ後チ乳汁或ハ鷄卵等ヲ與フヘシ

(四十六)燐ハ制鼠藥又ハ起火木製造等ニ供用セ
ラル、ヲ以テ屢々中毒ヲ來スコトアリ之ヲ救
助スルニハ前項ノ如ク先ツ毒物ヲ排除シ而
シテ後チ蛋白澱粉漿或ハ護謨漿等ノ如キ粘滑飲

五六

料ヲ飲マシムヘシ油類、酒類、乳汁等ハ決シテ與
フヘカラス是等ノ液質ハ容易ニ燐ヲ溶解シ
テ血中ニ吸收シ易カラシムルノ恐アレハナ
リ
(四十七)鳥獸、魚介又ハ木茸ノ中毒ニハ亦前項ノ
如ク多量ノ飲液ヲ飲マシメ指頭若クハ羽毛
ヲ以テ咽頭ヲ擦シテ嘔吐ヲ促スヘシ

第十五款

死徴及ヒ死體所置

六六

(四十八) 眞死ノ徵候ハ呼吸、脈搏、心動等全ク絶滅シ全身厥冷シテ下顎下垂シ肢體強直シ皮膚蒼白色トナリ眼窩陷没シテ眼球溷濁シ眼瞼半閉シテ手指半屈ナル等是ナリ但シ秋毫モ假死ノ疑アラハ百法以テ回生ノ術ヲ悉サスシハアル可ラス

(四十九) 死ニ決スル者ハ衣服若クハ薦等ヲ以テ之ヲ被覆スヘシ然レモ密ニ其面部ヲ覆フ可ラス或ハ假死ナルキハ呼吸ヲ妨害スルノ虞

アレハナリ又其死傳染病ニ因スル者ト認ムルキハ濃厚ノ石炭酸水ヲ多量ニ撒布スヘシ(五十) 檢視了テ其屍ヲ入棺セシムルニハ細心注意猶生體ニ於ケルカ如ク叮嚀ナルヘシ苟モ不敬粗暴ノ所爲アル可ラス

七六

人命急變救助法 尾

人命急變救助法附錄

日本手巾繃帶用法

第一手巾ヲ以テ額創ヲ纏絡セント欲セハ先ツ
手巾ヲ縱ニ二ツニ折リ其中央ヲ額ノ創處ニ
當テ其兩端ヲ頭顱ノ側面ニ沿ヒ後頭ニ於テ
結フヘシ

第二頭部ノ創傷ニ施スニハ四脚帶トテスヘシ

附錄一

手巾ノ兩端ヲ各分裂シテ二脚トテ先ツ帶
ノ中央ヲ創處ニ置キ左右ノ前脚ヲ後口ニ送

附錄二

リ項窩ニ於テ結ヒ其後脚ハ前方腮下ニ於テ
結フヘシ

第三手巾ヲ偏眼帶トセシニハ先ツ之ヲ縦ニ三
ツ或ハ四ツニ折リ中央ヲ患眼ニ當テ一端ヲ
耳下ニ送り一端ハ偏側ノ頭上ヲ横キリ後頭
ニ於テ結縛スヘシ

第四手巾ヲ兩眼ニ施スニハ又前ノ如ク縦ニ三
ツ或ハ四ツニ折リ中央ヲ兩眼ニ當テ後ロニ
於テ結フヘシ

第五耳創ニハ丁字帶ヲ用フ即チ手巾ヲ縦ニ二
裂シ其各片ヲ二ツニ折リ丁字狀ニ結合シ縦
帶ヲ耳廓ニ垂レ横帶ヲ耳上ニ置キ前ハ前頭
後ハ後頭ヲ越ヘ對側ニテ結ヒ縦帶ハ下顎下
ヲ過キ顔ノ偏側ヲ上リ横帶ニ達シテ止ム

附錄三

第六下顎骨脱臼骨折症等ニハ手巾ノ中央ヲ長
サ二三寸裂キテ裂間ニ頤ヲ入レ頭頂ニ於テ
兩端ヲ結合ス

第七又同病ニ頤腮四脚帶トシ用フ即チ手巾ノ

附錄四

兩端ヲ裂キ帶ノ中部ヲ腮上ニ置キ前脚ヲ下
顎ノ下縁ニ沼ヒ項窩ニ至リ交叉ノ前頭ニテ
固定シ後脚ハ下顎底ヨリ顔ノ側面ヲ上リ頭
頂ニ於テ結フヘシ

第八頭部ノ創ニハ手巾ヲ頸巾ノ如ク重疊シ頸
圍ヲ周匝ス其創ノ所在大小ニ應シ其用法ヲ
異ニス

第九肩創ニハ二箇ノ手巾ヲ用フ其一ハ腕ヲ保
持スルノ用ニ供シ其一ハ患部ニ當テ腋下ニ

於テ兩端ヲ交叉シ更ニ外部ニ廻シ結フヘシ

第十胸創ニハ手巾ノ中央ヲ胸ニ當テ其一端ヲ

裂キ一側ノ肩ヲ越ヘ後方ニ引キ左右ノ兩端

ハ腋下ニ送り背ニ於テ裂端ト相結合ス

第十一背部ノ創ニモ亦同法ヲ用フ唯其用法ヲ

反スルノミ

第十二指傷ニハ手巾ノ端ヲ以テ卷キ腕頸ニ於

テ之ヲ結フ

第十三腕傷ニハ手巾ヲ縱ニ四ツニ折リ其中央

附錄五

六錄附

ヲ創處ニ當テ腕ヲ卷キ腕頸ニ於テ兩端ヲ結
合ス

第十四四肢ノ創痕ヲ繃帶スルニハ手巾ヲ縱ニ
四ツニ折リ尋常ノ卷軸帶ノ如ク之ヲ繃帶ス
ヘシ

第十五趾傷ニモ亦タ指傷ト同法ヲ用フ

第十六足ノ創ニハ猶腕傷ニ於ケルカ如ク纏絡
シ踵ノ上部ニ於テ兩端ヲ結フ

第十七四肢ノ切斷痕ヲ繃帶スルニハ手巾ノ中

央ヲ創ニ當テ兩端ヲ少シク裂キ左右相交叉
シ上部ニ於テ結フヘシ

第十八腹創ヲ卷クニハ中央ヲ創ニ當テ背部ニ
廻シテ結フヘシ

第十九陰囊ヲ提舉スルニハ手巾ノ兩端ヲ二裂
シ中央ヲ以テ陰囊ヲ包ミ裂端ヲ以テ前後ヨ
リ腰圍ノ保持帶ト結合ス

七錄附

其他手巾ハ重疊シテ壓定巾トナシ冷水ニ浸
シテ寒罨法ニ供シ解撒シテ撒絲トナシ分裂

附錄八

シテ數片ヲ彌縫スレハ尋常ノ糊帶トナル等
其用舉テ數フヘカラズ

人命急變救助法附錄畢

明治二十年九月十三日出版々權屆

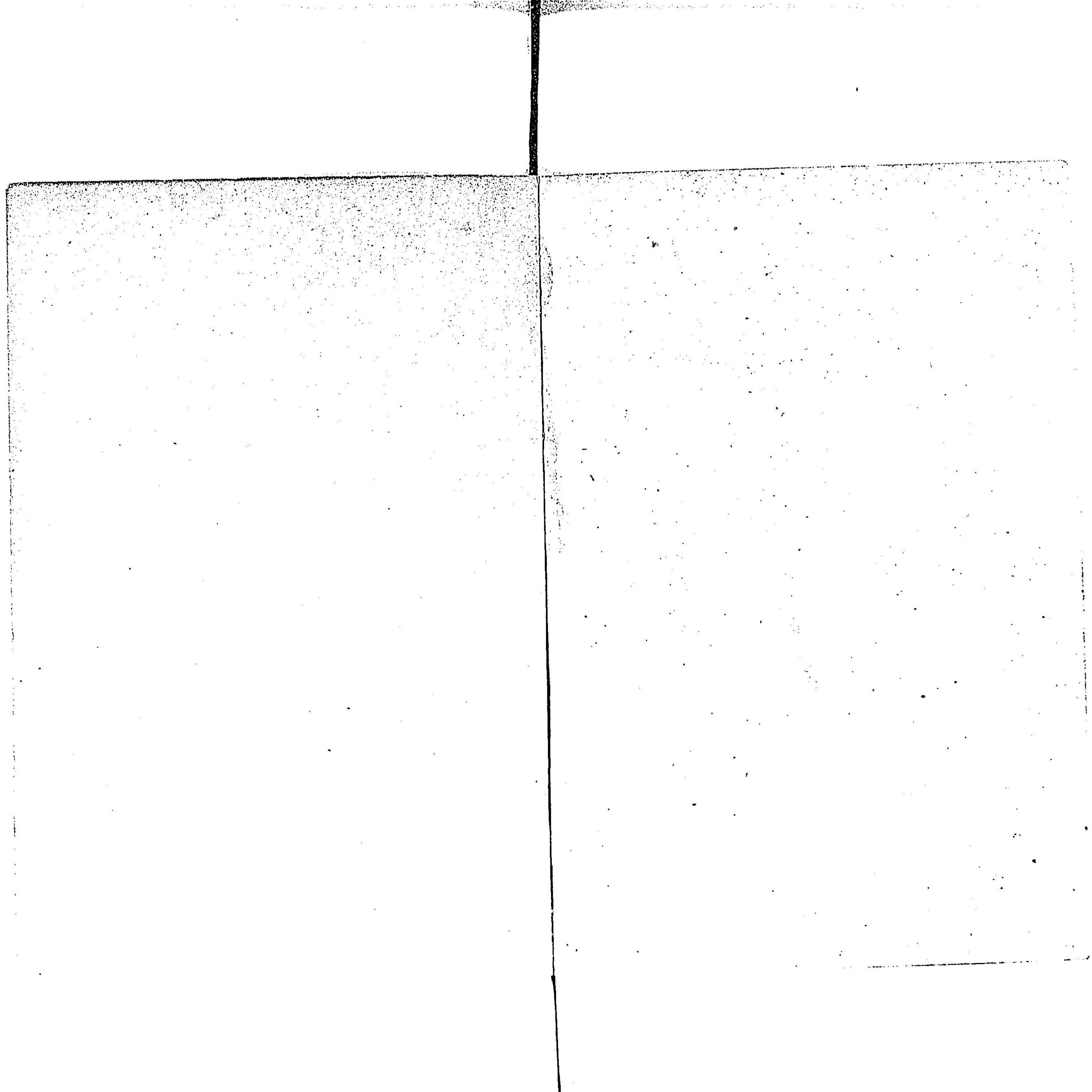
定價金拾五錢

警視廳
御用書林
須原鐵二

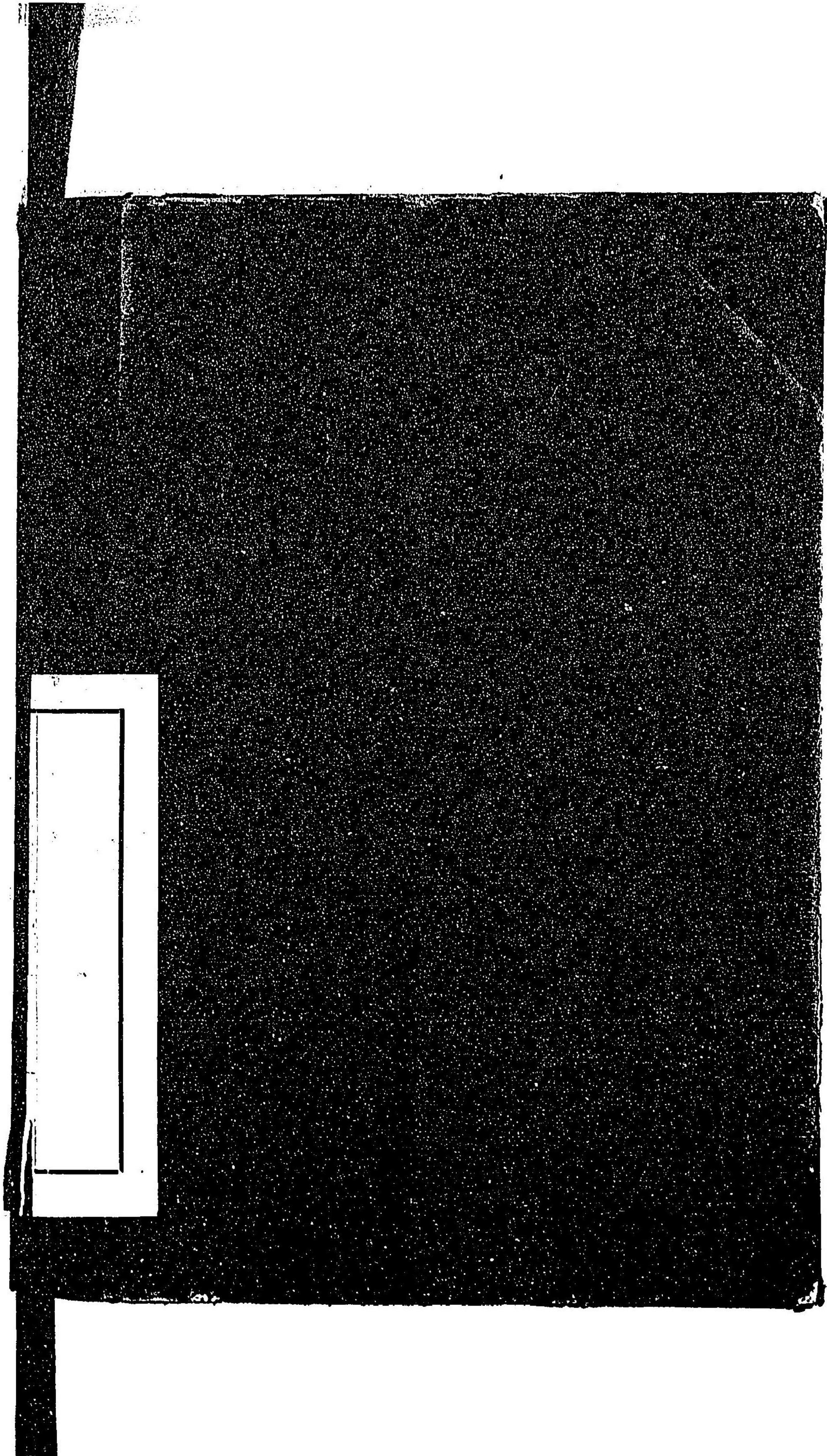
東京日本橋區西河岸町十二番地

大阪府下大阪備後町四丁目
大阪及關西地方
賣捌書店
博聞分社

東京々橋區元數寄屋町四丁目
印
刷
藏田活版所



41
7



058695-000-8

71-7

人命急変救助法

安藤 卓爾 / 編

M20

CBC-0238

